

本棚 ぶらり

テーマ
お金



『お金の流れでわかる世界の歴史』

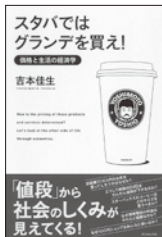
おおむらおおじろう
大村大次郎／著
KADOKAWA 2015年



国の興亡には一定のパターンがあるという。強国は財政システムや徴税システムなどが整備されているが、国の崩壊は、富裕層が特権を作って税を逃れ、そのしわ寄せが中間層以下に向かったときに引き起こされる。例えば古代ローマ。官僚による脱税とインフレにより一部の特権階級だけが財を成し、市民の生活がますます破綻して滅ぶことになった。世界史の大きな流れを「お金」の視点、さらには税と国家財政の視点から見ているのが新しい。他にも「エジプト王朝は徴税システムが整っていたため、3,000年もの長期にわたり繁栄した」「イスラム帝国は税が安く、侵攻した国から撤退の際は税を還付していた」など、あまり知られていないエピソードも面白い。

『スタバではグランデを買え！』

よしもとよしお
吉本佳生／著
ダイヤモンド社 2007年



インパクトのあるタイトルの本書は、エコノミスト・著述家として多方面で活躍する著者の代表的な一冊。例えばお茶は、自動販売機では150円、スーパーでは88円、100円ショップでは108円と、同じモノが違う価格で売られているのはなぜなのか。一方で、100円ショップのように、違うモノが同じ価格で売られている理由は。読み進めると、「スタバではグランデを買え」という言葉の真意はモノそのものではなく、多様なコストが鍵を握ることがわかる。そもそもコストとは何か、価格はどうやって決まるのか。個々の消費行動の多様化が進む今、消費者として何を大切に考えてモノやサービスを選ぶべきかを改めて考える機会となりそうだ。

『教育費&子育て費 賢い家族のお金の新ルール』改訂版

まえのあや
前野彩／著
日経BP 2020年



社会や経済の変化をはじめ、結婚、出産、子育てなど人生の転換期でお金について考える人は多いだろう。総額を計算すると不安になりがちな教育費や子育て費を賢く準備するにはどうすればいいのか。本書には幼保無償化や私立高校の実質無償化、昨今の働き方の変化を踏まえたお金の情報が満載。働く女性が増えた今、夫の収入だけでなく妻の収入にも着目して収入パターン別に家計管理のアドバイスがなされており、我が家はどのパターンなのかを考えながら読むことができる。専業主婦か共働き家庭か、私立か公立か、繰上げ返済か住宅ローン控除か、親世代と今の世代の主な違いは何か、など様々な比較が盛り込まれ、未来を見据えて頑張る子育て世代に人生の選択肢を増やしてくれる一冊。

『日本古代貨幣の創出 無文銀銭・富本銭・和銅銭』

いまむらけいじ
今村啓爾／著
講談社 2015年



奈良県の飛鳥池遺跡で出土した「富本銭」は、発掘調査の結果、鑄造年代が700(文武4)年以前に遡ることが確認され、日本最古の貨幣の可能性が極めて高いことが1999(平成11)年に発表された。今まで日本最古の貨幣と言えば「和同開珎」とされており、富本銭の発見はこの定説を覆すものであった。しかし、本書では富本銭もむしろ最古ではなく、まじない銭あるいはただの銀塊と考えられていた「無文銀銭」こそが日本最古の貨幣ではないかと説く。では無文銀銭とは何なのか。富本銭の歴史的な発掘をもとに、貨幣誕生についての謎を解明していく。